

学校名	佐賀市立小中一貫校芙蓉校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	・児童生徒の学びには、成長がみえる。児童生徒のさらなる自主的な学習姿勢や探求心を育むことができるように、ICT等の活用スキルアップを図ったり特別支援教育体制をさらに整えたりしていく。 ・児童生徒と関わる時間や教材研究に充てる時間を確保するため、行事の精選や時間の運用を工夫していく。 ・地域との連携が十分にできており、児童生徒にも地域を大切にする心情が育ってきているので、今後も継続していきたい。	
---------------------------------	--	--

2 学校教育目標	「学び ふれあい 伸びゆく芙蓉」
----------	------------------

3 本年度の重点目標	・児童生徒が自ら学ぶ力を身に付けるための授業改善を進めることを通して、児童生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成と学力の向上を目指す。 ・児童生徒の個性や特性に寄り添い、全職員が協働して特別支援教育に取り組む体制を強化する。 ・業務改善・教職員の働き方改革を推進する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の実践	○一人一台端末活用を通して、「様々な活用方法について知り、授業実践に生かすことができた」と回答する職員85%を目指す。	○一人一台端末活用に関する職員研修を行い、職員の活用スキルを高める。 ・端末を活用した授業実践・公開を一人1回行う。	A	・一人一台端末活用について、実践を通した研修を行った。 ・2学期も継続して研修を行う予定。さらに、授業実践公開も行い、実践力を高める取り組みも充実させる。 ・4月～、専門部では、情報活用についてのアンケート検討や教材研究を行い、実態把握や指導に生かす。	A	・学校評価アンケートにおいて、「一人一台端末活用について、様々な活用方法について知り、授業実践に生かすことができる」と回答している。「おおむねできている」と回答した教職員の割合は100%で目標を達成した。 ・4月～9月に端末の活用方法について研修会を行った。研修会での学びをもとに授業公開を行い、普段の授業に生かすことができた。	A	・一人一台端末の様々な活用方法を知る研修会や公開授業を行い、活用スキルを高めることができると思う。 ・PCやAIは、これから必要不可欠なものであるため、今後もスキルを向上させてもらいたい。 ・今後も継続してほしい。	○研究部 ・校内研究各部
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童生徒を88%以上にする。	・各学級でグループエンカウンターを実施したり、互いの気持ちを理解し合う言葉掛けの実践を促したりする。 ・2学期を通じて、自己肯定感を高める。 ・人権委員会に集まり思いや感動を書かせ、他者の意見にふれさせ、多様な考えがあることを尊重させる。	A	・〈小学部〉 ・人権についての読み聞かせの1回目は7月9日に実施した。 ・平和集会を7月9日に実施し、感動の記入により振り返りをする機会を設けた。9月の人権集会も、感想をさせ予定である。 ・〈中学部〉 ・5月から1月1日、教師が人権の話をしている。 ・平和集会を6月に実施し、平和について考える機会を設けた。 ・能登地震の授業を実施し、感動を石川県の中学校へ送付して、自分事として考える機会を設けた。 ・9月は佐賀東高校の運動部を招聘し、地域の方や保護者の参加を呼びかけて実施する。	A	・学校評価アンケートにおいて、「道徳の時間に自分やほかの人の気持ちについて真剣に考えている」に対し、「そう思う」でどちらかというと「そう思う」と回答した児童生徒は88%で目標を達成した。 ・学校評価アンケートに集まり思いや感動を書かせ、他者の意見にふれさせ、多様な考えがあることを尊重させるために、全体計画や指導計画に沿って、道徳教育実践している」に対し、「できている」「おおむねできている」と回答した教職員は90%に達した。 ・佐賀東高校による人権劇は、主人公の気持ちに寄り添う感想が多数見られた。	A	・人権意識を高めるための研修会を保護者・地域を対象として実施し、活用スキルを高めることができると思う。 ・平等の授業や人権集会で、自己肯定感を高めたり、他者の意見にふれさせ、多様な考えがあることを尊重させる。 ・今後も継続してほしい。
●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実		○問題行動やいじめの防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取り組み等)について組織的に対応できると回答した教職員を90%にする。	・5月までにいじめの認知・認知に対する対応マニュアルの見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修を年に2回以上行う。 ・1月1日の生徒指導協議会では、必ずいじめの事例と対応について情報共有する。	A	・夏季休業中に問題行動やいじめ防止など事案対応の研修を行った。全職員参加の研修だったことにより90%以上の職員の共通理解が図られたと考えている。 ・毎月実施する生徒指導協議会では、支援を必要とする子どもたちの近況を報告し合ったり、いじめ事例については初動の様子や保護者対応等について情報を共有し合っている。	A	・学校評価アンケートにおいて、「いじめアンケート等を定期的に実施し、予防と早期発見を学校全体で組織的に進めている」に対し、「思わぬところからいじめが起きている」と回答した教職員の割合は100%で目標を達成した。	A	・問題行動やいじめ防止において、予防と早期発見が組織的にできている。 ・いじめ防止のための様々な取り組みに感謝している。 ・100%という高い評価を得ている。実習者の強みと感じる。 ・今後も継続してほしい。	○生徒指導担当 ・教育相談担当 ・保健主事
		●◎児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのいじめることを認めてくれている」と回答した児童生徒80%以上にする。 ●◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒を75%以上にする。	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・教育相談週間等を利用して将来の夢や目標をもっている」について、児童・生徒対象の聞き取りを学期に実施予定である。 ・教科指導や総合的な学習を通して、将来のキャリアへの見通しをもたせる教育活動を引き続き継続する。	A	・学校評価アンケートにおいて、「先生方(の誰かは)、はわたしの良いところや、わたしががんばったことなどを伝えてくれる」に対し、「そう思う」「どちらかというとそう思う」と回答した児童生徒の割合は80%で目標を達成した。また、「わたしは、大人になって、ぜひやりたこと(または、仕事)があります」に対し、「そう思う」「どちらかというとそう思う」と回答した児童生徒の割合は82%で目標を達成した。	A	・目標値の80%をもっと超えてほしい。子ども達へのほめ言葉や励ましの声掛けを積極的に進めてほしい。 ・児童生徒の資質・能力を育むための校内研修がしっかり行われている。 ・今後も継続してほしい。
●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒を80%以上にする。	・給食だけでなく、健康づくりを発行する。 ・養護教諭と学校栄養職員、家庭科教諭との授業に関する授業の実践を行う。 ・給食だけでなく学校HPの「献立紹介コーナー」等を活用し、保護者に対し、望ましい食習慣や食事メニューの紹介と啓発を行う。	A	・食育の取組「早ね・早おき・朝ごはん」は、年間3回実施している「Fuyo夢プロジェクト」において6月に実施してきた。 ・養護教諭と学校栄養職員、家庭科教諭との授業実践を2学期に実施する。 ・給食だけでなく学校HPの「献立紹介コーナー」等を活用し、保護者に対し、望ましい食習慣や食事メニューの紹介と啓発を行う。	A	・学校評価アンケートにおいて、「わたしは、健康な体になるために、何でも食べよう」という意識を育てたいと考えている」に対し、「そう思う」「どちらかというとそう思う」と回答した児童生徒は89%で目標を達成した。望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成を図ることができたと考えられる。 ・学校評価アンケートにおいて、「学校は、食の大切さについて指導し、できるだけ好き嫌いなく食べられるよう支援している」に対し、「そう思う」「どちらかというとそう思う」と回答した保護者の割合は93%に達した。	A	・給食便りや保護便りの発行は、食の大切さを理解し、好き嫌いも少なくすることへの支援になっている。 ・妹は家庭の仕度だと思ふ。学校がそれを力を入れてくれていることに感謝している。	○食育担当 ・保健主事 ・学校栄養職員	
	○9年間を見通した生活習慣の形成	○基本的な生活習慣を身に付けている児童生徒を85%以上にする。	・小学部は「生活の四つの約束」、中学部は「生活の五つの約束」の趣旨を児童生徒・保護者に説明し、「立派」等系統性をもって指導を行う。 ・各学期に生活習慣アンケートを行い、その結果をもとに家庭と連携して改善を図る。 ・清潔で整頓された学習環境を常に心がけ、正しい清掃の仕方を学ばせる機会を設ける。	A	・毎月の生徒指導協議会、小学部、中学部共に生活の約束事項を確認し、共通理解をし、全職員で系統的な指導を行っている。毎月実施する学級朝会では、生活の約束等の話を児童・生徒に行っている。 ・月に1回の生活アンケートを実施し、問題がある案件については、生徒指導協議会で共通理解を図り、問題解決に向けて、関係機関や家庭との連携、改善策の検討、机の引き出しなど、整理整頓を日頃から意識するように声掛けを行っている。また、無言清掃を心がけさせ、落ち着いた環境での清掃活動を通して、望ましい清掃の仕方を学ばせている。小学部では、清掃前に、各クラスで、話し合いの場を設け、集中して清掃に取り組めるようにしている。	A	・年間を通して、小中で「あいさつ」「人の話を聞く」「時間をまもる」に出会いの一礼、感謝の一礼「無言清掃」を指導した。学校評価アンケートにおいて、「学校は、望ましい学習習慣が身につくよう指導を行っている」に対し、「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した保護者の割合は91%で、本校の指導方針に一定の評価を得ていると考える。 ・1月の生活アンケートを定期的に実施できた。また、生徒指導連絡協議会で、児童生徒の心身両面での変化や友だちとの人間関係などを共通理解し、対処することができた。 ・小学部では縦割り掃除、中学部では無言掃除の徹底を図り、よりよい学習環境づくりに取り組むことができた。	A	・地域の方への挨拶がよくできている。学校での指導の成果がうかがえる。 ・家庭との連携を図りながら進めていく必要がある。 ・「あいさつ」「人の話を聞く」「時間をまもる」に出会いの一礼、感謝の一礼「無言清掃」の徹底で、清潔で整頓された安心できる学習環境が作られている。 ・今後も継続してほしい。	○生徒指導担当 ・清掃担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務記録簿をもとに、各個人で時間外勤務の状況を把握しながら業務を進めた。教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間を削減し遵守できている。夏季休業中も期型勤務を有効に活用している。 ・夏季休業中に年次休暇の積極的な取得ができている。12月まで、全員、最低年間10日の取得をさらに目指す。	A	・1月から勤務システムが導入され、時間外勤務状況が把握しやすくなった。時間外在校等時間(月45時間以内)の達成率は、中学部73%、小学部85%であった。夏季休業中は期型勤務を有効に活用する職員が増えた。 ・12月まで、職員の年次休暇の最低年間10日の取得率86%であった。	A	・1月から勤務システムが導入され、時間外勤務状況が把握しやすくなった。時間外在校等時間(月45時間以内)の達成率は、中学部73%、小学部85%であった。夏季休業中は期型勤務を有効に活用する職員が増えた。 ・12月まで、職員の年次休暇の最低年間10日の取得率86%であった。	A	・時間外在校時間が減少し、年次取得率も向上している。 ・中学部の先生方の達成率を向上させる取り組みが必要である。 ・今後も継続してほしい。	○教頭 ・副校長
	○年間を見通した業務遂行の改善	○「次年度に反映させる業務改善の仕組み」の構築ができたと回答する教職員の割合を80%以上にする。	・行事ごとの振り返りを確実にし、次年度の業務内容の見直しを図る。 ・特別支援教育の推進に関する研修会を、ミニ研修を含め年3回実施する。 ・人権委員会を中心に年次休暇の積極的な取得ができている。12月まで、全員、最低年間10日の取得をさらに目指す。	A	・行事ごとの振り返りをアンケートを通して実施し、改善点を職員間の意見交換を行う。また、次年度への申し送り事項もまとめた。 ・会議の回数で昨年度より3回減少し、短縮した内容で会議を実施することによって目標を達成した。育英隊1人への支援・能力を明確にしたが、各部署の連絡の回数も大幅に削減できた。	A	・学校評価アンケートにおいて、「本校は、学校行事や学年行事、体験活動等の振り返りを行い、次年度の取り組みについて見直しができている」に対し、「できている」「おおむねできている」と回答した教職員は98%で目標を達成した。育英隊1人への支援・能力を明確にしたが、各部署の連絡の回数も大幅に削減できた。	A	・行事の見直しが十分に行われているので、安心して進めることができる。 ・行事に際しては、前段階での準備等も効果的に進められている。 ・今後も継続してほしい。	○副校長 ・教頭
●特別支援教育の充実	○小中教職員の協働による特別支援体制の充実	○特別支援学級に在籍する児童生徒だけでなく、困り感をもっている児童生徒全ての学習機会を保障するために、意識をもって支援に当たる教職員100%を目指す。	・授業の乗り入れをはじめ、小中の枠を超えた積極的な関わりと指導・支援を推進する。 ・特別支援教育に関する研修会を、ミニ研修を含め年3回実施する。 ・人権委員会を中心に年次休暇の積極的な取得ができている。12月まで、全員、最低年間10日の取得をさらに目指す。	A	・年度当初の生徒指導協議会の中で、特別な配慮が必要な児童生徒について、関係機関や家庭との連携、改善策の検討、机の引き出しなど、整理整頓を日頃から意識するように声掛けを行っている。また、無言清掃を心がけさせ、落ち着いた環境での清掃活動を通して、望ましい清掃の仕方を学ばせている。小学部では、清掃前に、各クラスで、話し合いの場を設け、集中して清掃に取り組めるようにしている。	A	・学校評価アンケートにおいて、「支援を必要とする児童生徒に対し、個別の教育支援計画のもと、小中の枠を超えられらるべく支援に当たっている」に対し、「できている」「おおむねできている」と回答した教職員は91%で目標を達成している。育英隊1人への支援・能力を明確にしたが、各部署の連絡の回数も大幅に削減できた。 ・学校評価アンケートにおいて、「学校は、困り感のある児童生徒の支援を全職員で行っている」について、「わかる」に回答した保護者の割合が17%だったため、保護者向けに学校での取り組みを伝えていく必要がある。	B	・目標値を下げてよいものではない。 ・「困り感のある児童生徒への関わりについて、学校からのPRがまだ少ないのかもしれない」。 ・特に「個別の支援」に関するもの、研修会や学習、話し合いの場を増やすように検討していただきたい。 ・今後も継続してほしい。	○特別支援教育Co ・特別支援学級担当
	(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域連携による共有	○地域とのつながりを感じ、郷土を愛する心の育成	○年間学校支援(OT等)延べ150名以上とする。 ○「学校はホームページや学校だよりで、学校の様子を地域や保護者に伝えている」と回答する保護者の割合を85%以上にする。	・地域の方をOTとして活用する。 ・地域の方と児童生徒が交流している様子を学校だよりやホームページで紹介する。 ・学校だより「うんしん」を計画的に発行する。	A	・地域OTには、7月末までに延べ113名を招聘し、昨年度比2.1倍となった。郷土の文化、野菜栽培、水泳指導などの専門的な指導に加え、給食準備指導(準備支援)等でも地域連携を図ることができた。「子どもお守り隊」の腕章発着家庭を点検し、改めて取り組み依頼ができた。 ・「学校だより「うんしん」は、1学期に11号までを発行し、地域の方と児童生徒が交流している様子を紹介できた。	A	・地域の方による今年度の学校支援者数は、延べ635名で、目標値を大きく上回って目標を達成した。実習校設立150周年を迎えるに当たり、講師を招聘したり、地域の方の感謝の気持ちを伝えるするなど、地域と連携した取り組みが実現できた。 ・学校評価アンケートにおいて、「うんしんや学級だより等で、学校の様子を伝えている」に対し、「できている」「おおむねできている」と回答した保護者は98%で目標を達成した。保護者や育友会の方からありがたい情報発信を今後も正しくしていきたい。	A	・学校便り「うんしん」は内容が盛りだくさんで充実している。 ・地域の方の学校支援をよしてくれていることはとてもよいことだと思う。学校と地域との連携がうまくとれていることを表していると感じる。 ・学校と地域が連携し、学校を支援することは重要なことであり、十分にできていると感じている。 ・情報発信がよくできており、非常に良好である。 ・今後も継続してほしい。	○副校長 ・教頭

5 総合評価・ 次年度への展望	・授業改善の1つとして、一人一台端末活用を進めた。その結果、児童生徒、教師ともに活用力が向上した。次年度は、端末活用は授業改善の手段であることを再確認し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいく。 ・特別支援教育、教育相談、生徒指導が連携して児童生徒の指導・支援に当たることができた。次年度は、全職員が協働して指導・支援に当たるための体制を強化する。 ・業務改善・教職員の働き方改革を継続して推進する。	
--------------------	--	--